



第389号

**公益社団法人  
徳島県環境技術センター**

発行

徳島市津田海岸町2-33

電話 (088) 636-1234(代)

発行責任者 大坂 利弘

編集者 原岡 艶甲

## 第7回理事会開催 委員長・副委員長を承認

県環境技術センターは、7月27日、事務所4階会議室で、総会后、新役員による初めての理事会を開催した。理事会には、新理事を含む理事12名、監事2名全員が出席した。

大坂会長の挨拶の後、自己紹介をし、大坂会長が議長となり、議事を進めた。

### 第1号議案 新規入会者の承認について

議長が、入会申込書が提出されている、阿南地区大松谷清掃（代表者 大松谷仁氏）の入会について、理事会に諮った結果、満場一致で承認決定した。

### 第2号議案 各委員会の委員長・副委員長の承認及び担当理事の選任について

議長が、各委員会から、選出された委員長及び副委員長について理事会に諮った結果、満場異議なく承認された。また、担当理事については、下記のとおり決定した。

理事会で承認された委員長・副委員長及び担当理事

委員会	委員長	副委員長	担当理事
施工技術	高尾 武司	田原 典郎	吉岡 誠
保守点検・清掃	中川 幸彦	真貝 浩司	岡崎 光二
環境広報	美馬 秀夫	森 玄德	田村 茂人

なお、保守点検・清掃委員会の委員を1名追加することとし、その選出は会長に一任、次回理事会で会長が報告することとした。

### 第3号議案 単独から合併浄化槽への転換促進について

議長の指名により、原岡専務理事が、関係資料を示し、「①徳島県は汚水処理率9年連続全国ワースト1である。②不況の影響で浄化槽の設置数が年々減少している。③新設浄化槽の補助金を廃止する市町村が増えている。などの理由から、今後センターは単独を合併へ転換促進する問題を最重要課題として取り組むべきである」と提案した。

理事会は、今後のセンターの課題として「単独から合併への転換促進」に取り組むことが必要との認識に基づき、次の理事会までに常任理事会で具体案をとりまとめて提案することとした。

議事終了後、7月までに行った事業や、4月からスタートしている標準契約書の受付状況について報告した。最後に、保守点検業者・清掃業者を対象に9月21日に講習会を開催することを報告し閉会した。



理事会

## 全浄連四国支部・事務局長会議 開 四国地区検査機関協議会も同時に催

平成24年7月23日(火)午後3時から、(公社)香川県浄化槽協会会議室において、全浄連四国支部・浄化槽指定検査機関四国地区協議会の事務局長会議が開催され、四国地区5団体から14名が出席した。

山条支部長・協議会会長（香川県会長）が挨拶をしたあと、事務局の香川県浄化槽協会の香川専務が議長となり議事を進めた。

第1号議案の「災害時相互支援協定について」は、あらかじめ各県より提出された意見を元に、個々の条文を整備し、事務局でまとめることとした。

第2号議案の「全浄連四国支部・浄化槽指定検査機関四国地区協議会合同役員会について」は、10月17日・18日に盛岡市で開催予定の全国技術研究集會に合わせ、前日の10月16日に仙台市で開催することとし、

その際に四国地区5団体の会長が災害時支援協定書に調印を確認した。

第3号議案の「平成24年度浄化槽指定検査機関四国地区協議会検査員研修会について」は、当番県である当センター宮内課長から、9月13日・14日に徳島市で行う検査員研修会の内容を説明した。今年度より、九州ブロックとの連携が実現、4県12名の出席があることを報告、また、九州地区の研修会は11月に開催が予定されているため、四国四県の参加者を募った。

今後、他ブロックとの相互参加については、九州地区の同意が得られれば、担当県が一巡するまで（4年間）継続することが決定した。

会議の予定議案が終了したため、5時に閉会した。



事務局長会議

# 各委員会が開催される

## 1 施工技術委員会

施工技術委員会は、7月23日(月)に開催された。各地域から選出された委員9名のうち、6名が出席、新しい委員9名の中から、委員長に高尾武司氏、副委員長に田原典郎氏を選出し承認された。

早速、高尾委員長が議長となり、今後の活動方針について協議した結果、昨年からの継続協議となっている重大な法令違反である、「名義貸し」を最重要課題とし、今後、その防止対策を検討していくことを決めた。対策案としては、報告書に写真を添付する等の問題を引き続き検討する。また、現場でのトラブルあるいは、工事に関して、会員間で情報交換しトラブル等に対応することが必要との意見から今後検討していくこととした。



## 2 保守点検・清掃委員会

県環境技術センターは7月24日(火)午後2時から、保守点検・清掃委員会を開催した。

まず、「第1号議案の委員長・副委員長の選任については、委員長に中川幸彦氏、副委員長に真貝浩司氏を満場一致で承認した。

第2号議案の今後の委員会の活動については、次のとおり協議していくことが決まった。

- ①維持管理標準契約にかかる問題点について
- ②無管理または管理不良の浄化槽に対する指導強化について
- ③無資格者による保守点検の排除について

最後に、真貝副委員長より、保守点検専門家との意見交換も重要との提案があり、新たに委員を加えることが決まった。人選については、会長に一任された。



## 3 環境広報委員会

環境広報委員会は、7月19日(木)午後3時から開催された。

まず大坂会長が、「環境広報委員会の活動は、法定検査をはじめ、水環境保全の啓発において非常に重要である」と挨拶し、正副委員長の決定まで議長を務めた。審議の結果、委員長に美馬秀夫氏、副委員長に森玄德氏が選出された。

次に今後の啓発活動計画について、昨年度の実績を考察しながら協議し、次のとおり取り決めた。

- ①従来の事業を継承していく。
- ②小中学校の環境学習等の子供向けへの啓発も積極的に取り組んでいく。
- ③地域の環境保全活動に務める（上勝町植樹活動、津田海岸公園パークアドプト活動等）
- ④行政にも積極的に参加を働きかける。



## 神山町で一括契約の広報実施

県環境技術センターは7月21日(土)、道の駅「温泉の里神山」において、神山町きれいな水づくり推進協議会で10月にスタートする予定の「浄化槽維持管理一括契約」のPR活動を実施した。啓発には県環境技術センター、協議会会員、県ゴミゼロ推進担当、神山町職員計16名が参加、一括契約及び法定検査のパンフレットと粗品（うちわとキッチンタオル）を配布した。

当日は、道の駅構内で同施設を訪れる神山町民に対しPR活動を行っていたが、井内副会長（神山町きれいな水づくり協議会会長）が戸別訪問による啓発を提案、会員・職員らが広報車3台に分乗し、道の駅周辺の設置者宅を軒並みに訪問、夏空のもと、玉のような汗を流しながら、300部の啓発パンフレットを直接町民に届け、一括契約のメリット等について説明し、新システムへの理解を求めた。







# 汗だくで地引き網を楽しむ

びっぴりカンカン照りで絶好の地引き網日和？に恵まれた7月28日(土)、県環境技術センターは、阿南市の中林漁港で観光地引き網を楽しんだ。



昨年は残念ながら参加人員不足で中止となったが、一転今回は50人を超える会員さんやその家族が参加。若い子供連れの家族に混じり、直射日光が、頭にしみるお年頃(事務局の某課長含む)も多く出席、Tシャツ・短パンの若い衆軍団と長袖・長ズボンに帽子・ほかおかぶりの前期高齢者チームに見事に色分けされた団体となり、周囲の人たちからは、『何の集団？』と、かなり奇妙に映っていたようである。そんな中、岡崎理事だけは還暦を過ぎているにもかかわらず、早朝から30年ぶり(本人談)の海水浴を楽しみ、いろんな意味で周囲を驚かせていた。若い！！

各自が海水浴(若い衆)や座談会(シルバー軍団)を楽しみつつ、全員が揃った11時30分、大坂会長の挨拶の後、早速網の引き上げを開始。一体感の無いかけ声のもと、砂に足を取られながら、運動会の綱引きのごとく汗だくで懸命にロープを引っ張り、15分ほど

で大きな網を引き上げた。網の中には、一時水槽の中で休憩をしていたと思われる濁った目の鯛や夏バテ気味のアナゴなど、それなりに入っていたため、子供たちはおそろおそろ手づかみして大はしゃぎ。一方では『こんな少ないんは、値切ったんちゃ〜うんか？』との副会長の冗談に、大人の事情を理解できない子供たちが敏感に反応、『ようけお金払ったら、ようけお魚が網に入るん？、お魚もお金が好きなん？』と素朴な疑問を投げかけていた。



とれたて？の魚を漁協の女性陣が調理してくれる間、テントの下では焼きそばやトウモロコシの蒸し焼きなどを作ったが、会員さんに混じり、どこからともなく、知らない人たちも並んでおり、『これもらえるんだろ？』と震災後の炊き出しのような状況になっていた。(さすがに公益法人ではあるが、今回は受益者負担が原則なのでと丁重にお断りしていた)

新鮮なお魚もお肉も目一杯食べて、満腹になったところで午後からは『スイカ割り』を開催。目隠しをした子供たちが全保課長の声を頼りにスイカに挑んだが、なかには右・左では無く、『海の方向いて』という無茶な指示を出す某事務局長もいて、かなり手こずっていた。また、その後には砂に埋められた景品を探す『宝探し』なども実施。子供たちにとっても楽しい一日となった。

最後に大坂会長は、会員間の親睦を図るため、今後もこのような行事を企画をするので、出来るだけ参加してくださいと参加者に呼びかけ、2時30分散会となった。

## 水質計量便り

9月の中旬から10月中旬にかけて、スズメバチが攻撃的になる時期を迎えます。

このスズメバチ、日本にはスズメバチ属(7種)クロスズメバチ属(5種)ホオナガスズメバチ属(4種)が生息しており、中でもスズメバチ属のオオスズメバチとキロスズメバチによる死亡事故が多く報告されています。

ハチの毒針は産卵管が変化したものなので、刺すのはメスだけらしいのですが、ちょうどこの時期にスズメバチの巣が大きくなり、繁殖期を迎えるので、外敵から守るため攻撃的になるそうです。スズメバチを見かけたら、追い払ったり、急に動いたりしないで、静かに後退し、その場を離れましょう(>\_<)。

身の周りを飛び始めたら、10m以内に巣がある可能性があります。さらに近づくと目の前に飛んできて、顎を打ち鳴らして「カチカチ」という警告音を発するそうです。

もし、刺されたら、刺された部位から毒液を絞り出し、毒は水溶性なので、水で洗い流してください。そして一刻も早く病院へ行って手当を受けましょう((+\_+))。

このように、大変危険なスズメバチですが、最新の研究によると、オリエントスズメバチと呼ばれる種類は、太陽光から電気を生成する“ソーラセル”が組み込まれており、いわゆる“太陽光発電”をする動物として確認されたそうです。

オリエントスズメバチの茶色い組織は、メラニンが多く含まれ太陽光を閉じ込める“光トラップ”として機能し、黄色の組織には、キサントプテリンという色素が多く含まれ、光を捕獲し電気を生成する機能をもつようです。

発電効率はわずか0.335%程度らしいのですが、おもしろいですね~(\*。\*)。 by koizumi

## 事務局だより

### 法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。



#### ○11条検査

日程：平成24年9月10日～10月5日

地区：徳島市・鳴門市・阿南市・三好市・松茂町・板野町・那賀町・東みよし町

#### ○7条検査

日程：平成24年9月10日～9月28日

地区：鳴門市・松茂町・板野町

### 新規入会会員情報

地区：阿南地区

社名：(有)大松谷清掃

代表者：大松谷 仁

住所：阿南市富岡町玉塚39

TEL：0884-22-0485 FAX：0884-22-3434

